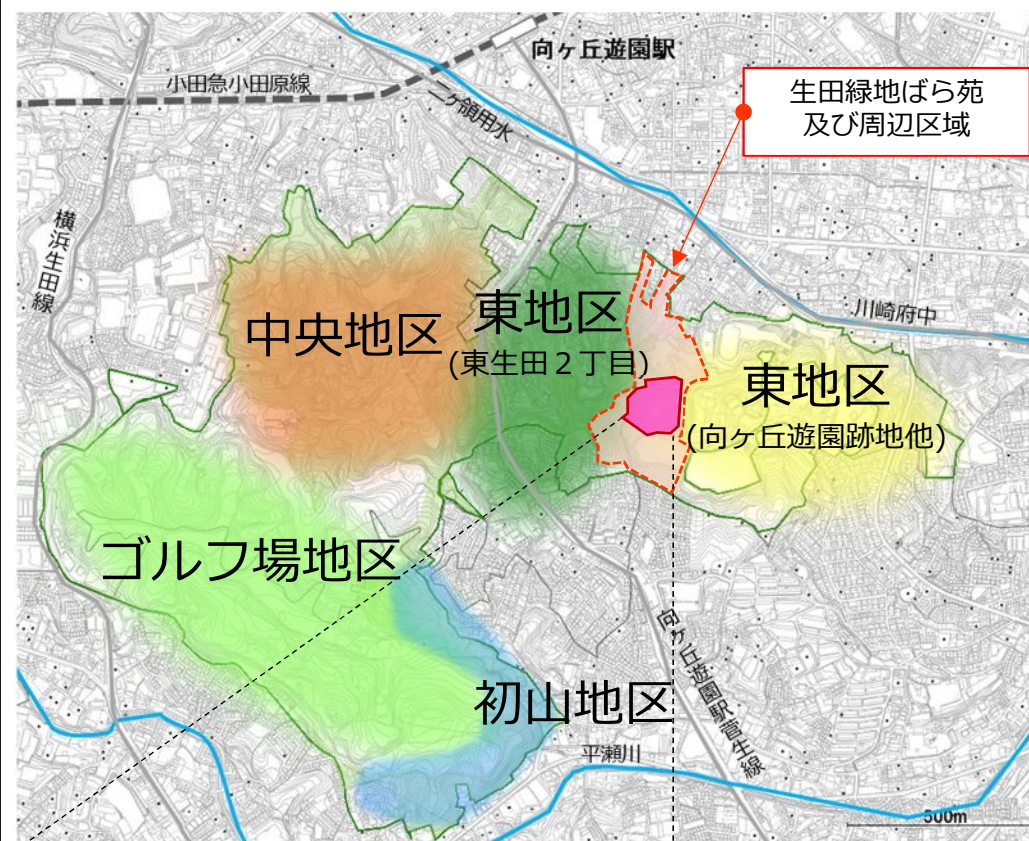


(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について

生田緑地ばら苑の概要

設置	1958(昭和33)年、小田急向ヶ丘遊園地内の施設として開苑	
住所	川崎市多摩区長尾2丁目8番1号ほか	
面積	ばら苑及び周辺区域7.4ha (ばら苑1.2ha、管理ヤード、臨時駐車場0.86ha)	
ばらの品種	800品種3,300株(秋は620品種2,900株) ・四季咲大輪種 (HT,ハイブリットティー) ・四季咲中輪種 (FL,フロリバンダ) ・つる性種 (CI, クライミングローズ) ・四季咲極小輪種(Min,ミニチュア) ・ハマナシやサンショウバラなどの原種のバラ	
ばら苑を構成する主な施設	植栽	バラ、サクラ、マツ、シラカシ、ツツジ、芝生等
	園路・広場等	中央苑路、中央西苑路、東苑路、西苑路、南苑路、芝生広場、第2イベント広場、カナル跡通路
	建築物	・ローズガーデンハウス160㎡、温室、コンテナトイレ(男子・女子各1基)、管理棟、作業小屋(ボランティア休憩スペース含む)、プレハブ倉庫
	工作物	・大パーゴラ、ベンチ ・白亜の彫刻(「白鳥と子供」「母と子」、「花の女神フローラ像」等)
	駐車場	臨時駐車場60台 (未使用:もみじ谷駐車場100台)
	自然	樹林地
管理体制	委託((公財)川崎市公園緑地協会)	
開苑期間	春・秋の年間合計45日間(R6は47日間)	
入苑料等	無料(駐車場1,000円/台)	
入苑者数	R6 春 54,919人	

生田緑地案内図



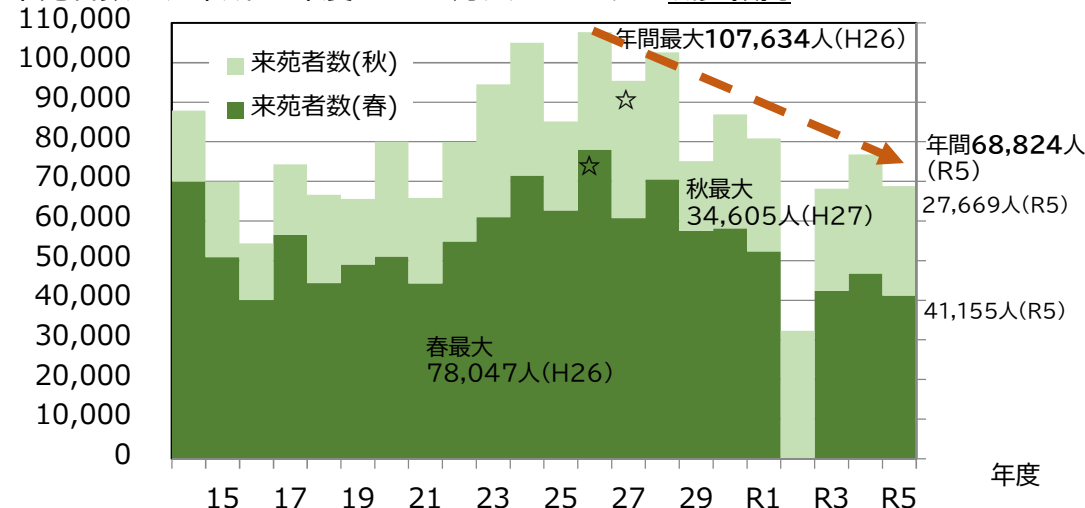
生田緑地
ばら苑開花状況

2

（仮称）生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について 生田緑地ばら苑の現状整理

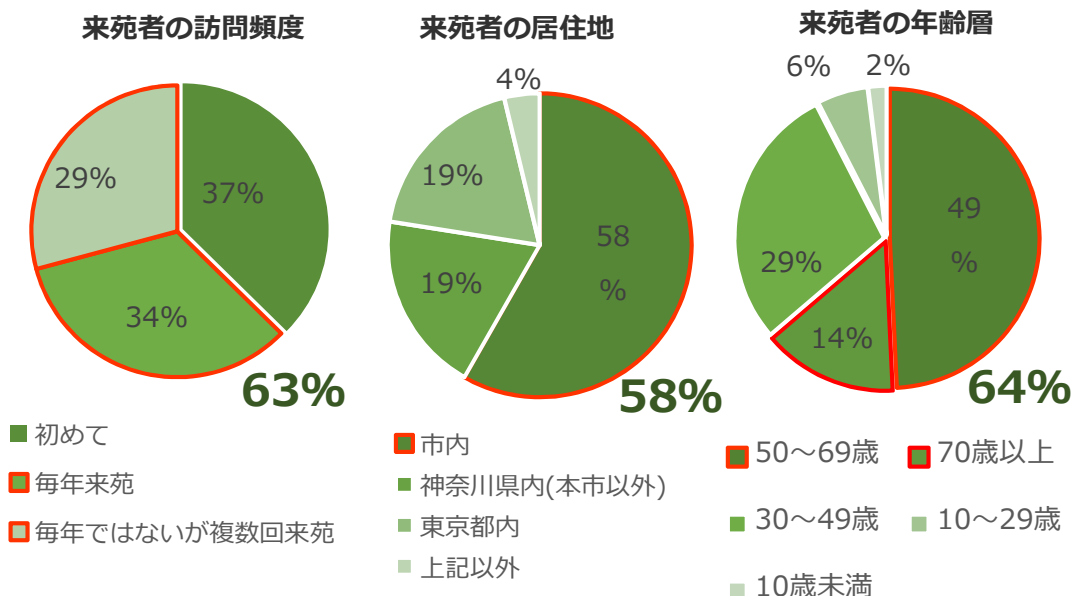
●春・秋 来苑者数の推移

来苑者数は、平成26年度の10.7万人をピークに**減少傾向**



●来苑者の属性(R5秋アンケート N=400名)

来苑者は**リピーター、市内、50歳以上の中高年**が**各6割前後**



●来苑者のばら苑改善に向けた意見(R5秋調査結果 N=400名)

Q1：ばら苑で気に入っているところ

①ばらの種類が豊富（27%）②入苑料が無料（20%）③緑に囲まれている（19%）

Q2：ばら苑で不満なところ

①日陰が少ない（19%）②飲食物施設が少ない（15%）③開苑期間が限定（14%）

Q3：ばら苑をよりよくするために必要なもの

①アクセス性の改善（22%）②通年開苑（18%）③バラ以外の草木との混植（15%）

Q4：ボランティア参加に向けた支援

①気軽に参加できる仕組み（37%）②技術が学べる講座（22%）

自由意見を分類（複数回答可）

①激励・感謝（22%）②満足・楽しみ（17%）③現状維持（10%）

●ばら苑ボランティアの声（R5調査結果）

バラの品種や植栽について

- ・原種、オールド・ローズ、初期のモダンローズ等は大事に保存して欲しい
- ・耐病性、耐暑性のある新しいばらや、病気に強い品種を導入して欲しい
- ・大半で無農薬または減農薬が可能な現代の品種の導入や減薬剤散布の工夫をしてほしい

修景や施設について

- ・バラだけではなく、バラと相性のいい植物等も有れば良い
- ・つるバラは見ごたえあるので、パーゴラの低いところまで咲かせると良い
- ・花壇を工夫し、来園客がバラに近づき香りを確かめると良い

管理について

- ・指揮のもと、プロとボランティアが共に維持管理を行うが、ボランティアが主体となって企画運営できるボランティアガーデンを設け、従来同様のオールド・ローズなどこだわりの珍品種などの育成が必要
- ・講師により内容にバラツキがあり、できれば一人のベテラン講師に絞るのが望ましい
- ・継承すべき点はボランティアと一緒にバラを育てていくこと

その他

- ・開苑期間が春秋たったの3週間程では勿体無い
- ・ローズのハーブティーやアイスetc...何か目玉になるバラグッズを販売すると良い
- ・府中街道の駐車場からマイクロバスを走らせてほしい

(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について

各地ばら苑の整備事例

●整備事例(現地視察を行い、ヒアリングした箇所を抽出)

	京成ばら園	横浜イングリッシュガーデン	いばらきフラワーパーク	綾瀬市光綾公園	生田緑地ばら苑
写真					
特徴	京成バラ園芸の「世界に誇れるバラの作出と日本にバラの文化を広めたい」趣旨を発信	草花や樹木、四季咲きバラを春から秋まで楽しむイングリッシュガーデン	花を愛で、自然を感じ、五感を取り戻す。「見る」から「感じる」フラワーパークを目指して再整備	個性のある新時代のローズガーデンとして再整備。フォトジェニックな世界各地のテーマガーデンで構成している	開園時は、品種の豊富さで「東洋一のばら園」と呼ばれた。現在は、「秘密の花園」として親しまれる。
バラの品種	1,600品種 10,000株	2,200品種 2800株	900品種 9,000株	150品種 680株	800品種 3,300株
植栽面積 (敷地面積)	— (30,000㎡)	2,000㎡内外 (一)	— (120,000㎡)	5,700㎡ (7,700㎡)	5000㎡ (12,000㎡)
整備年度 (再整備)	1959年 (1999年)	2009年 (2012年)	1985年 (2021年)	1976年 (2024年開苑準備中)	1958年
所在地	千葉県八千代市	横浜市	茨城県石岡市	神奈川県綾瀬市	本市
費用	—	整備費不明／維持管理運営費は入園料等で賄っている。整備費までは確保できない。	再整備費20億円／維持管理運営費3.04(入園料収入2.02,行政負担0.67)億円(R4年度実績)	維持管理運営費の一部を入園料で賄う想定	維持管理運営費 8千6百万円(R6年度)
管理者	民間	民間	市(指定管理者)	市(指定管理者の予定)	市(委託管理)
入園料	1,800～500円・小中学生500～200円・身障者1,500～500円	1,500～700円 小中学生 半額 身障者 半額	1,500～900円 小中学生500～300円、 身障者無料	有料化の予定	無料
入園者数	15万人(通年開放)	14万人(通年開放)	25.2万人(通年開放)	(目標)5～6万人(通年開放)	8万人(春・秋限定)
ボランティア	—	○(会費制)	○(一部)	○(一部・育成中)	○

(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について 生田緑地ばら苑に対する専門家の意見

●バラに関わる様々な専門家の意見を聴取

ヒアリング対象	コメント
日本各地の庭園デザインや 管理指導を行う 育種家・ガーデンデザイナー	・ <u>生田緑地ばら苑は、改植がされなかったことで、今では見ることが少ない「希少な古い品種」が多く残っており、資産とも見える一方で、古株が多く、樹勢が弱い。</u> ・ バラ文化や園芸に造詣の深い人達や専門家から見ると価値あるコレクションだが、残念ながら一般的にはその価値は分かりにくい。見せ方等を上手くすることが大事。 ・ 改修の際に土壌づくりを適切に行うことが大事。
バラの香りの研究、野ばらの書籍の執筆 や植物分類学などを扱う 研究者	・ 生田緑地ばら苑のバラは関東圏のばら園では珍しく、関西地方で育成されたバラが保存されており、研究の際に重宝した。 ・ ばら苑を再整備する際には、貴重な品種は接ぎ木をしながら保全し、継承すると良い。 ・ 新しい品種だけで整備すると他のばら苑と同じになってしまうので、特色を残す視点も大事。
日本各地のローズガーデンデザイン・ 植栽を手掛ける 育種家・ガーデンデザイナー	・ 設計時からガーデンデザイナー等の意見を組み入れながら進めることが大事 ・ 庭園の中にバラだけではなく、次はフジ、バラ、アジサイなど順に楽しめると良い。 ・ ばらコーナーは春と秋だけ開園すると割り切ったほうが良い。ばら苑全体を均一にするのではなく、毎年新しいばらをみせるコーナーをつくり、環境に馴染んだものを既存の中に植えていくような管理が良い 等
ガーデン雑誌編集長	・ <u>ばら苑には、ガーデンデザイナーとそれを実践できるリーダー、スタッフが必要。これを担える人材発掘が成功のポイント</u>
日本各地の庭園デザインや 管理指導を行う ガーデンデザイナー	・ ばら園の定義は実は決まっていない。バラが3000株あることよりもバラが魅力的に見れる場所であることの方が大事ではないか。(見せ方によっては、1000株未満でもばら園と呼ばれる) ・ 公共(自治体)が担うばら苑の意義を大事にすると良い。バラ園は完全な民間施設もあり、貴重種を保存する植物園でもないはずで、持続性を考慮し、目指す姿を上手く作りあげて欲しい。

(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について 生田緑地ばら苑が目指すべき3つの方向性

●ばら苑ボランティアや来援者へのアンケート調査、専門家へのヒアリングを踏まえ、新たなばら苑の方向性について、次のとおり整理しています。

継承すべき・したい資源

・貴重なばらのコレクション

苑内には、古の銘花から最新品種まで、作出年代に偏りなく、800品種、約3,300株のばらを育成・管理している。



・歴史ある庭園や施設

緑に囲まれた丘陵地内において、大パーゴラやローズガーデンハウスなどの人工美を加えた「造苑美のばら苑」として親しまれてきた。



・市民協働でばらを育てる文化

小田急向ヶ丘ばら苑として人々に愛されたばら苑は、存続の危機を乗り越え、現在は、生田緑地ばら苑として、市民との協働により維持管理をしている。



今後の「ばら苑」が目指すべき3つの方向性

1

「サステナブル」なばら苑

持続的な管理運営、種の保存、自然循環に取り組む

2

「歴史・文化」拠点となるばら苑

これまでの歴史を継承するとともに、庭園文化の拠点として整備

3

「魅力ある」ばら苑

誰もが親しみ、関わりたくなるような庭園を整備

直面する課題

・ばらの感染症や環境の変化への対応

根頭癌腫病等の感染症や気温上昇など環境変化への対応策として、生育環境の整備に向け、大規模な土壌改良や対候性の品種検討などが必要となっている。



・ばら苑の老朽化、庭園としての魅力向上

開設から66年が経過し、修景施設、苑路、トイレ、など施設の老朽化や、ユニバーサルデザインへの対応など多様なニーズに応えるため、大規模な改修が必要。

また、魅力向上に向けて、バラの品種及び株数、維持管理体制、開苑期間等の検討に加え、庭園としての魅力向上に向けた検討が必要となっている。



・バリアフリーやアクセス性の改善などへの対応

苑内や周遊路などのバリアフリー化を進めるとともに、徒歩による主なアクセスが、尾根沿いの階段となることからアクセス改善が必要。
また、ばら苑までの主動線が民有地となっており、向ヶ丘遊園跡地利用計画との調整が必要となっている。



「魅力が溢れ、誰もが好きになる」ばら苑の実現

(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について 3つの方向性に基づく取組イメージ

1 「サステナブル」なばら苑

～持続的な管理運営、種の保存、自然循環に取り組む～

ア 土壌などの生育環境の整備と気象環境に合わせたバラの導入を検討

バラの生育環境の整備として土壌の置換もしくは改良とともに、温暖化を踏まえ、新たな環境に適したバラの植栽を検討します。

(ア)土壌の置換・改良

既存土壌への堆肥等の混合や新たな基盤層の施工等、良好な生育のための生基盤層の施工を検討します。

(イ)新たな環境に適したバラの導入

既存の品種に拘らず、近年の気象環境に適した品種の導入を検討します。



‘マダム・メラニー・スペール’
HT、1905年 フランス



‘カイザリン・アウグステ・ビクトリア’ HT、
1891年、ドイツ

イ 持続的に魅力的なサービスを提供できる仕組みの導入を検討

魅力的なばら苑に向けて、環境整備（期間に制限されない通路の整備、管理ヤードの確保）や必要な財源の確保・開苑期間など、持続的な管理運営に向けた仕組みについて検討します。

(ア)管理施設（バックヤード・倉庫等）の整理

植替え用の植栽や土等の資材を保管可能な管理施設を検討します。

(イ)維持管理運営に必要な財源の確保

新品種の導入やイベント実施に必要な費用等の確保に向けた財源を検討します。

ウ 自然環境に配慮したばら苑

持続可能なばら苑として、再生可能エネルギー（太陽光発電等）の導入やグリーンインフラ（雨水貯留機能等）としての整備、減農薬を目指す取組み等を検討します。

(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について 3つの方向性に基づく取組イメージ

2 「歴史・文化」拠点となるばら苑

～これまでの歴史を継承するとともに、庭園文化の拠点として整備～

ア 希少品種となったバラの継承

開苑当初より育て、収集し、育ててきたバラのコレクションは、本苑の歴史を象徴するものとして選別し、継承するバラの品種を検討します。

(ア)コレクションの整理

歴史を象徴する貴重なバラなど継承する品種と、継承する手法について検討します。

イ 協働の取組の強化・拡充

新たなばら苑の魅力向上に向け、ボランティア育成にかかわる取組の強化やボランティアが主体的に活動するエリアの継承を検討します。

(ア)ボランティア活動サポートのための環境整備

老朽化した施設を改修し、快適に活動できるような施設整備を検討します。

(イ)ボランティアの育成に係る仕組みづくり

スキル向上のための各講習など、ステップアップできる仕組みなどを検討します。



生田緑地ばら苑ボランティア活動風景



ボランティア講座イメージ

ウ 多様な庭園空間を有する庭園文化の拠点

庭園内のゾーニング等で、エリアごとに四季折々に独自の魅力を発信するなど、多様性に富んだ庭園空間の創出等を検討します。



新鮮な配植デザイン

浜名湖ガーデンパーク



構造物とのコンビネーション

はままつフラワーパーク

6

(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について

3つの方向性に基づく取組イメージ

3

「魅力あるばら苑」

～誰もが親しみ、関わりたくなるような庭園を整備～

ア 施設の更新・充実

現在のばら苑は、施設の老朽化等が課題になっており、ユニバーサルデザインに基づくとともにインクルーシブな空間となるよう再整備を検討します。

(ア) ユニバーサルデザインに基づきインクルーシブな空間となるような施設整備
移動円滑化のための施設整備や車椅子やベビーカーでも円滑に移動できる回遊路の整備を検討します。

(イ) 休憩スペース、トイレ等の整備
利用者ニーズに合わせ、休憩施設やトイレを整備するなど誰もが利用しやすい環境整備を検討します。



花みどり文化センター
国営昭和記念公園



屋外の休憩スペース
国営越後丘陵公園

イ いつも新しい感動を提供する場づくり

「東洋一のバラ園」としてバラの文化を先導してきた向ヶ丘遊園
ばら苑の歴史を踏まえ、今後100年もバラの文化を先導し、
来苑者の心を魅了するばら苑を目指して検討します。



多様な植物との混植
はままつフラワーパーク



完成度を高める管理
浜名湖ガーデンパーク



見て楽しめる提供手法
いばらきフラワーパーク

ウ 魅力あるコンテンツの充実

来園者が魅力を感じるワークショップなど体験型コンテンツの充実や、季節に
合わせたイベントなど非日常的な空間創出などを検討します。



ローズガーデン
ウエディング
国営越後丘陵公園
(出典：公式HP)



ハロウィン・ディスプレイ
横浜イングリッシュガーデン
(出典：公式HP)



ワークショップスペース
いばらきフラワーパーク

（仮称）生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について

生田緑地ばら苑の再整備に向けた条件整理

生田緑地ばら苑の再整備に向け、ばら苑の規模やコンセプト、バラの品種などの再整備に向けた条件を整理するとともに、ばら苑周辺の園路や駐車場、管理柵等必要な整備等も含め検討を進めてまいります。また、新たなミュージアム基本計画(案)において新たなミュージアムの開設地が決定されることを踏まえ、ばら苑及び周辺区域については、生田緑地ばら苑及び周辺区域再整備エリア(3.5ha)として一体整備に向けた検討を進めてまいります。

●生田緑地ばら苑現況図



区分	数量	単位
ばら苑	12,000	m2
植栽地	ばら・サクラ・マツ・シラカシ等	5,000 m2
園路	園路等	4,890 m2
	カナル跡	400 m2
広場	芝生広場	1,330 m2
便益施設	トイレ棟	66 m2
	管理棟内トイレ	4 m2
管理施設	管理棟	160 m2
	温室（倉庫）	150 m2
その他		
植栽（バラ）	オールドローズコーナー	1,600 m2
便益施設	臨時駐車場	8,600 m2
管理施設	資材倉庫・ボランティア詰所	280 m2

①生田緑地ばら苑の再整備に向けた基本的な検討項目

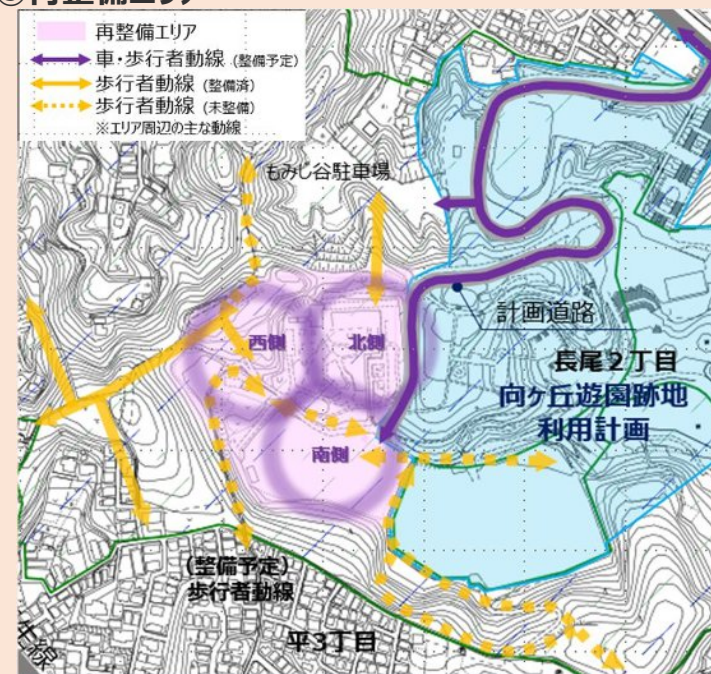
主な検討項目	現状
ばら苑の規模	1.2ha
ばらの品種・植栽の面積	800品種3,300株・ばらを主にした植栽地5,000㎡
コンセプト等	緑に囲まれたばら苑 向ヶ丘遊園ばら苑の継承
必要な施設	管理棟・倉庫・ボランティアの休憩所・仮設トイレ
来園者向けサービス	キッチンカー・バラ苗販売等
市民協働	ボランティアと協働による維持管理
整備・管理運営手法	民設・委託
アクセス	公共交通機関を基本
駐車場	1,000円／台・回
利用料金	無料
開苑期間	春・秋の期間限定

②周辺区域における整備

駐車場・オープンスペース・周遊散策路・管理用通路

※新たなミュージアムとの調整が必要、整備期間中の取組

③再整備エリア



＜配置する主な施設＞

施設名称	機能・配置条件
花と緑の拠点（ばら苑）	現在の規模1.2haを参考に検討中 ※管理棟、植栽範囲、敷地内通路など含む
様々な交流の場（新たなミュージアム）	新たなミュージアムの延床面積は 9,500㎡～11,500㎡
憩い・賑わい・防災機能としてのオープンスペース	まとまった空間（建物や大規模な工作物等がなくオープンなスペース）
駐車場等	障がい者用、学校など団体バス用
エリア内通路	回遊性のある通路、管理用通路

8

(仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について 民間活力導入に向けた検討

本事業については、民間活用（川崎版 PPP）推進方針に基づき、改定したビジョンに基づく「新たなばら苑の方向性」を踏まえ、PPPプラットフォームによる意見聴取(R6.3.11、R6.3.12に個別ヒアリング・4社参加)を実施し、民間事業者の事業への関心、整備や管理運営への提案、料金設定の要望、管理運営に関わる多様な提案を受けています。

このような意見を踏まえ、**本事業については、整備・管理運営において民間活力導入により「公園緑地における収益性の確保・向上と維持管理に係る財政負担の軽減」、「民間のアイデア、ノウハウの効果的な導入の促進」等が期待されることから、魅力的かつ効率的・効果的な市民サービスの提供に向けて、民間活用手法を基本に次の考え方(案)に基づき検討を進めてまいります。**

項目		現状	考え方（案）	具体的な取組例
事業手法	整備	—	民間事業者の自由で柔軟なノウハウを最大限活かせる手法を導入	DBOやP-PFIの採用
	管理運営	委託		指定管理者制度／設置管理許可制度の採用
料金体系		無料	持続的な運営の基礎的な財源及び民間事業者のインセンティブとして有料化の可能性と収益還元の仕組みを検討	利用者による一部負担／収益を活かした取組
開苑期間		春・秋の年45日間の開放	施設の価値の最大化や有効活用の観点から通年開放を目指す	通年開放（夜間は閉鎖管理を想定）
管理運営	飲食等	キッチンカーによる提供 ばら苗の販売	来園者へのサービス向上や通年開放に対応した機能を導入	ばら苑らしい飲食／来園者増に向けたサービス
	講習会等	開園期間中 （ばらに特化）	市民サービスの向上及び施設の有効活用・価値の最大化に向けて導入	通年における実施（園芸全般など講習内容の多様化）
	ワークショップ	—	市民サービスの向上及び施設の有効活用・価値の最大化に向けて導入	ドライフラワーづくりやばらの香水づくりなど気軽に参加できる内容の充実
	ボランティア	様々な管理作業を実施	ばら苑の魅力向上に向けて、ボランティアのすそ野を広げ、育てる仕組みを導入	ガーデナーを配置し、技術向上の機会を設けた仕組みづくり

9 (仮称) 生田緑地ばら苑管理運営整備方針の検討状況について スケジュール

本方針の策定に向けては、利用者アンケートやばら苑ボランティア、ガーデンデザイナーなどへのヒアリング、学識経験者で構成する附属機関等での意見聴取、民間事業者へのヒアリング等を踏まえながら検討を進めてきた「**再整備に向けた条件**」等について、**今後、市民意見聴取やサウンディング調査などを実施し、検討を進めてまいります。**なお、「**新たなミュージアム**」の開設地決定(令和7(2025)年3月予定)を踏まえ、**一体整備に向けた検討を深める事項があることから、本方針については、新たなミュージアム管理運営計画の策定に合わせて、令和7年度中に取りまとめてまいります。**

	令和 6 (2024)年度	令和 7 (2025)年度	令和 8 (2026)年度以降
生田緑地ビジョン アクションプラン(案)	・ 具体的な取組（案） （詳細内容・5か年の目標等） 策定	生田緑地ビジョンアクションプランに基づく取組の推進	
生田緑地ばら苑管理運営 整備方針	○再整備に向けた基本的な条件の整理 ・ 規模 ・ ばらの種類等 ・ コンセプト ・ 必要な施設等 中間報告 及び市民 意見聴取 サウンディング調査 整備・管理運営手法等の 検討の深度化 （案）公表 パブリックコメント 策定	生田緑地ばら苑管理運営 整備方針に基づく取組の推進 一体的な検討 ○エリア内の配置等を検討 ○一体的な整備に向けた手法の検討 一体的な取組の推進	生田緑地ばら苑管理運営 整備方針に基づく取組の推進 一体的な取組の推進
新たなミュージアム 関係	新たなミュージアム基本 計画の検討 （案）公表 パブリックコメント 策定	新たなミュージアム管理 運営計画の検討 （案）公表 パブリックコメント 策定	新たなミュージアムに整備に向け た取組の推進